

# パークシティ柏の葉キャンパス ザ・ゲートタワーイースト

Park City Kashiwa-no-ha Campus The Gate Tower East

No. 06-022-2018作成  
新築  
集合住宅

発注者	三井不動産レジデンシャル株式会社	カテゴリー	
設計・監理	株式会社熊谷組一級建築士事務所	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO2技術
		C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB
		E. リニューアル	F. 長寿命化
		G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携
施工	株式会社熊谷組	I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性
		K. その他	

## グリーンアクスを核とした環境共生型集合住宅

### まちなみ・景観への配慮

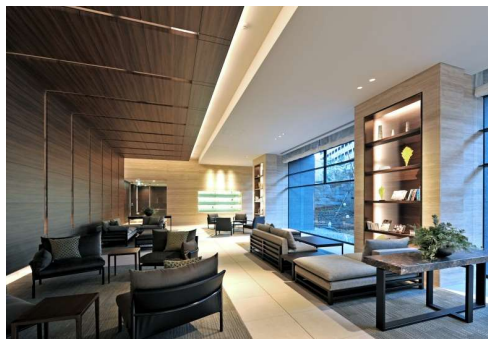
本計画が位置する柏の葉キャンパス148街区は土地区画整理事業全体の中心に近い場所にあり、ゲートタワーイーストは非分譲建物とシンメトリーにツインタワーを構成している。公・民・学により設立されたアーバンデザイン委員会を通して、ランドスケープデザインから建物デザインまで街並みと調和するよう計画的にデザインされてきた。外観デザインは建物単独で見たときの優美さと、周辺街区との調和、連続性も意識している。

### 環境共生

柏の葉キャンパス駅とこんぶくろ池公園とを結ぶ軸線上にはコミュニティ、くつろぎ、遊びの場を設けたグリーンアクスを構成している。

本計画街区の中心部には再生自然林を模した植樹帯を設けるとともに、緑段で立体的な緑地計画をおこなうことで、街区での視覚的な緑量確保へ寄与している。

建物のラウンジの一角には、自然との触れ合い活動の場の提供として、水と光で植物を育てる「グリーンファクトリー」を設けている。



ラウンジからグリーンファクトリーを望む



鳥瞰

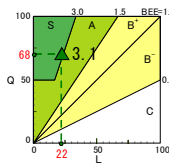


非分譲（左）とパークシティ柏の葉キャンパスザ・ゲートタワーイースト（右）を見上げる

建物データ	
所在地	千葉県柏市
竣工年	2017年
敷地面積	4,771㎡
延床面積	33,196㎡
構造	RC造
階数	地上36階

省エネルギー性能	
品確法省エネ対策	等級4

CASBEE評価	
Sランク	
BEE=3.1	
2010年度版自治体提出	



### AEMS + MEMS + HEMS + 一括受電

柏の葉スマートセンターを拠点としたAEMSで街全体のエネルギー利用の最適化を図り、国内初の「スマートグリッド（街区間電力融通）」の運用により電力ピークカットを実現している。災害時には各施設への非常時電力融通を行う。ゲートタワーイーストでは高圧電力一括受電、電力コンシェルジュ（MEMS）、エネルギーの「見える化」（HEMS）といったマンションとしてのエネルギーマネジメントシステムを採用している。

### 環境負荷低減

外構の植栽への井水利用により水環境の保全を図っている。専有部ではディスプレイ利用で廃棄物の低減、節水機器を利用し水資源保護を図っている。住宅性能評価劣化等級 3、住宅性能評価基準の省エネルギー対策等級 4を取得している。

### 中間免震の採用

1階と2階の間に積層ゴムなどの免震装置を配した中間免震構造とし、耐震性能の向上を図っている。基礎免震ではなく、中間免震を採用する事で、1階周囲のスペースが生まれ、街区の外構計画へ寄与している。



メインエントランス

設計担当者  
統括：飯田宏 / 建築：高島誠也、浜田品子、山本浩孝、木村悠佳、松本尚浩  
構造：西山拓洋 / 設備：河合秋峰、葛原弘章

### 主要な採用技術（CASBEE準拠）

- Q2 .2. 耐用性・信頼性（中間免震の採用、超高強度コンクリートの使用）
- Q3 .2. まちなみ・景観への配慮（アーバンデザイン委員会を経て計画された建物配置や形態のまちなみとの調和）
- Q3 .3. 地域性・アメニティへの配慮（一団地認定による共用通路の確保、周辺区域との調和・連続性の確保）
- LR1.4. 効率的運用（AEMS+MEMS+HEMS+一括受電）
- LR2.1. 水資源保護（井水利用、節水型機器の採用）
- LR2.2. 非再生性資源の使用量削減（柱・梁・床のPC化）

こんぶくろ池公園↑



街区全体配置図



エントランスへ向かうアプローチ